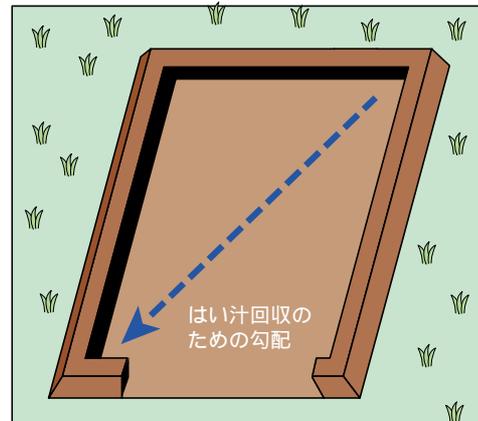


シート利用ふん尿処理施設の造成法

整地

- ・底部を十分に締め固め、はい汁が流れるように2%程度の傾斜をつけます。
- ・石などの突起物はシート破損の原因となるため、除去するか砂などで保護します。
- ・集水管用の溝を掘ります。集水管の設置部分は、周囲より一段低くし、はい汁が集まるようにします。
- ・雨水が外から入り込まないように四方に土盛りします。



(整地中)



(土盛りの土固め)



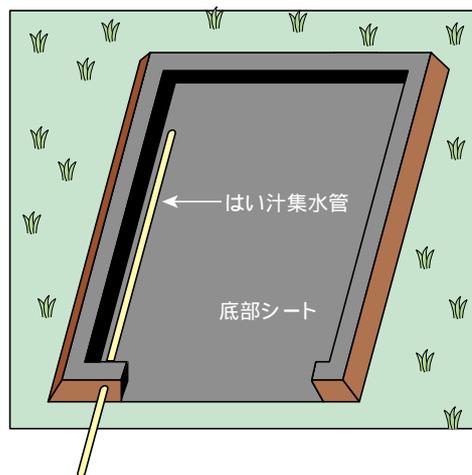
(整地後)



(作業機の搬入口は土盛りの高さを低くする)

底部シート・集水管の設置

- ・シートは、はい汁がもれないように貼り合わせます。
- ・シートは縦横とも2mの余裕を持たせます。
- ・床土で集水管が目詰まりしないようにします。
- ・集水管とシートは、はい汁がもれないように密閉接続します。



(シートの設置作業)



(床土によるシートの仮固定作業)

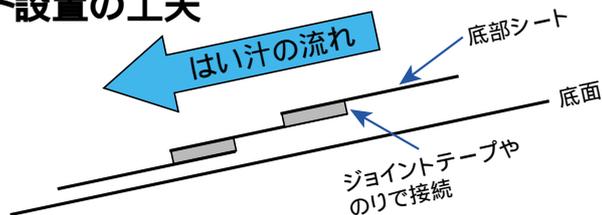


(集水管の設置)



シート利用ふん尿処理施設の造成法

シート設置の工夫



図のように傾斜に合わせてシートを配置し貼り合わせることで、はい汁がもれないようにします。

シートと集水管の接合部



畜産試験場の例
集水管とぴったりはまるサイズのゴム製の接合部を利用

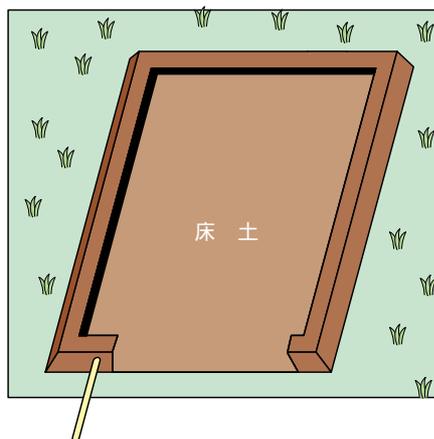


根釧農業試験場の例
シートとパイプの密閉接続(ポリフィッティング)を利用

シートの上に床土を入れ締め固め

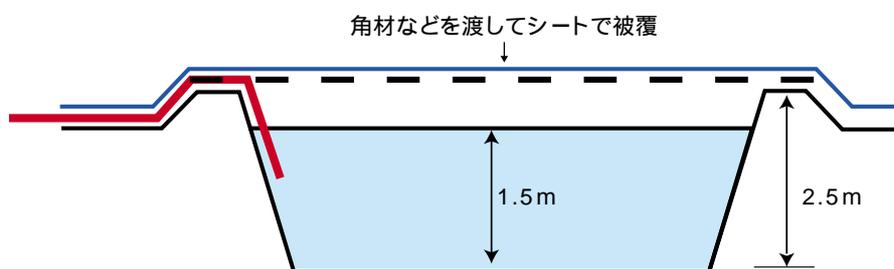
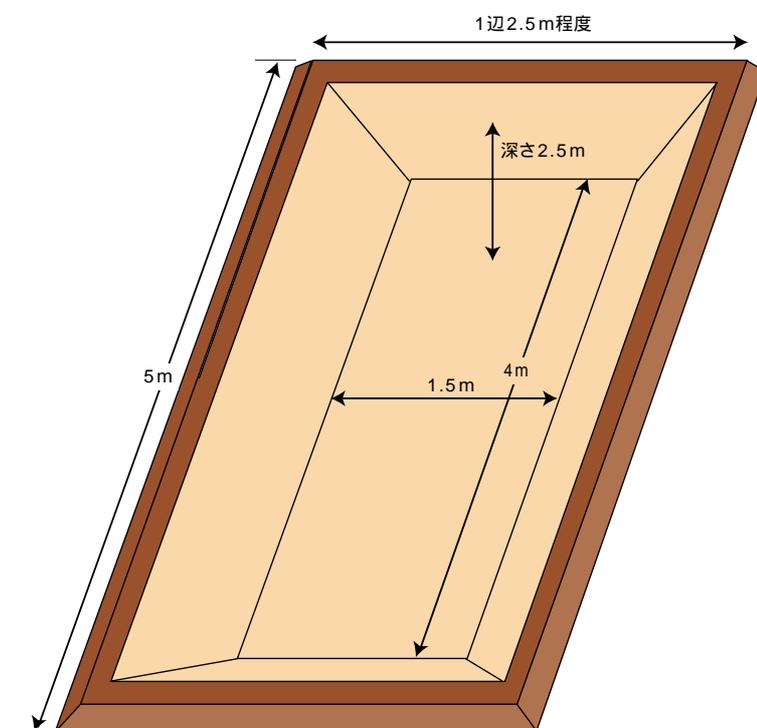
- ・床土は50cm程度敷き詰めます。
- ・床土を入れタイヤショベルなどで沈下しなくなるまで締め固めます。

床土入れた様子



はい汁槽の設置

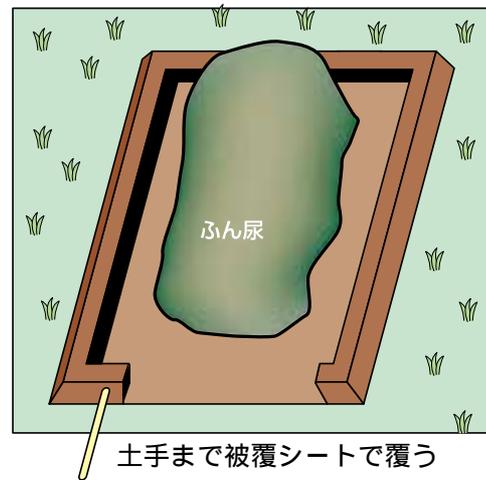
- ・ 集水管には必ずはい汁槽を設置し、はい汁を漏らさずに回収します。
- ・ はい汁槽の必要容量については、例えば100tの糞尿を6カ月間堆積する場合、はい汁量は最終的に15t程度となります。容量10t程度のはい汁槽をつくれば、堆積期間の途中で一度くみ出すことで、はい汁を漏らさずに管理できます。
- ・ 低コストなはい汁槽としては、シート利用した尿貯留施設があります。作り方の詳細はこの冊子の9～11ページを参考にしてください。
- ・ シート利用ふん尿処理施設を牛舎の近くに設置する場合、既存の尿溜りも利用できます。



シート利用の簡易貯留槽の例(10m³程度)

ふん尿を堆積し、被覆シートで被覆

- ・タンブトラック・タイヤショベルでふん尿搬入作業をします。
- ・雨水が入らないように被覆シートで施設全体を覆います。
- ・被覆シートはばたつかないように固定します。



(ふんの搬入)



(シートの被覆)



(土手まで被覆シートで覆い、砂利などで固定)

